

活動報告書

報告者氏名: 佐野将大 所属: 香川県立高松養護学校 記録日: 2021年2月10日

キーワード: 要求することや拒否することに困難さのある重度知的障害と肢体不自由障害をもつ子どもへの支援

【対象児の情報】

・学年

小学6年生の女兒

・障害の状況

A児: 重度重複障害(超重症心身障害児)

大まかに発達段階を捉えるため、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法を参考にした。

【手続きの変更】

検査の開始は(0:0)からとした(暦年齢から始めるとなっている)。

【不随意運動や反射の残存、身体の状態を踏まえた解釈の微調整】

0:10	つかまって立ちあがる	びんのふたを、あけたりしめたりする	泣かずに欲求を示す	身ぶりをまねする(オツムテンテンなど)	さかんにおしゃべりする(補語)	に反応する	
0:9	ものにつかまって立っている	おもちゃのたいこをたたく	コップなどを両手で口を持っていく	おもちゃをとられると不快を示す	夕、ダ、チャなどの音が出る	「いけません」と言う、ちよつと手をひっこめる	
0:8	ひとりで座って遊ぶ	親指と人さし指でつかもうとする	顔をふこうとするといやがる	鏡を見て笑いかけたり話しかけたりする	マ、バ、パなどの音が出る		
0:7	腹ばいで体をまわす	おもちゃを一方の手から他方に持ちかえる	コップから飲む	親しみと怒った顔がわかる	おもちゃなどに向かって声を出す	親の話し方で感情をききわける(禁止など)	
0:6	寝がえりをする	手を出してものをつかむ	ビスケットなどを自分で食べる	鏡に映った自分の顔に反応する	人に向かって声を出す		
0:5	横向きに寝かせると寝がえりをする	ガラガラを振る	おもちゃを見ると動きが活発になる	人を見ると笑いかける	キヤーキヤー言う	母の声と他の人の声をききわける	
0:4	首がすわる	おもちゃをつかんでいる	さじから飲むことができる	あやされると声を出して笑う	声を出して笑う		
0:3	あおむけにして体をおこしたとき頭を保つ	親にふれたものを取ろうとして手を動かす	顔に布をかけられて不快を示す	人の声がする方に向く	泣かずに声を出す(ア、クア、など)	人の声でしずまる	
0:2	腹ばいで頭をちょっとあげる	手を口に持っていつてしゃぶる	満腹になると乳首を舌でおし出したり顔をそむけたりする	人の顔をじいっと見つめる	いろいろな泣き声を出す		
0:1	あおむけでときどき左右に首の向きをかえる	手にふれたものをつかむ	空腹時に抱くと顔を乳の方に向けてほしがる	泣いているとき抱きあげるとしずまる	元気な声で泣く	大きな音に反応する	
0:0	歴移手基対発言語動の本人運運動習関語解	移動運動	手の運動	基本的習慣	対人関係	発声	言語理解
		運動		社会性		言語	

自分の手を無意識のうちに口の方に動かし、しゃぶるような行動が見られると合格

→自分の手が口の方に行くのは、反射や不随意運動である可能性も高いが、結果的に自分の手が口の方に行くと、しゃぶるような行動が見られる。

あやしたとき、声を出して笑えば合格

→声を出して笑うのは難しいが、「あやしたときに笑顔になる」ことが見られる。

反射や不随意運動、発声の難しさが背景にあることから、解釈には少し工夫を加えた。

【活動目的】

・当初のねらい

実践者（佐野）の目的

A 児の観察データをこれまでの実践から蓄積しており、その結果を教育活動に還元させたい。

業務改善が謳われている現場で継続的に取り組めるように効率の良いケース会がしたい。

担任の先生の実践に、子どもの見方や実践展開をするにあたっての視点を無理なくお伝えしたい。

実践協力者の目的

A 児の反応の意味をもっと知りたい。実践を進めるにあたってのヒントが欲しい。

・実施期間

2020 年4月～2021 年2月

・実施者

佐野将大、朝倉亜紀（担任）、谷口公彦（昨年記録をもっている）

・実施者と対象児の関係

他学級支援

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

- ・支援者側から見る事前の状況
 - ・以前に報告者がA児と関わり、A児の表出理解のための観察を行っている。
小学2年生時の観察データがある。
 - ・昨年に研究協力者(谷口公彦教諭)がA児と関わり、A児の観察を行っている。
小学5年生時の観察データがある。
 - ・反応が無いわけではないが、どのような実態であると判断したら良いのか分からない。
支援者側に潜在的な不安がある。

・A児の状況

- ・院内学級在籍。院内の部屋で授業を受ける。
- ・気管切開をしている。
- ・笑顔が見られる。
- ・手を伸ばす行動は見られない。
- ・要求や拒否は困難。
- ・それ以外の表出がどのようなものであるかを把握してもらうことに困難さがある。

コロナによる制限

- ・教員は隣接する学校から毎日1回、30分程度の訪問。
- ・訪問できる教員は制限されている。
- ・本児に、教材に触れさせてはいけない。教員も、本児に触れてはいけない(～10月)。

・活動の方法

- (1) 通常通り授業を行う
 - (2) 記録表を作成しつけてもらう
 - (3) 過去実践記録のビデオをOAK分析にかける ※研究仕様版を活用した。
 - (4) 協議を行う
 - (5) 授業を行う
 - (6) 協議2を行う
 - (7) 授業を行う
- …の繰り返し

本報告書では、このような協議のスタイルで、どこまで話ができたか

どのようなことが今後の課題であるかを整理し共有することを目的とする。

・活動の結果

(1) 通常通り授業を行う

- ・栽培活動
- ・音楽
- ・絵本の読み聞かせ
- ・おもちゃ遊び
- ・制作活動



(2) 記録表を作成

作製した記録表

覚醒・体調・機嫌について5件法で記録してもらうようにした。
記録結果との関連がないかを見るのが目的。

日時 月 日 時間目
天候 晴 曇 雨

覚醒	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
体調	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
機嫌	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5

なにをしているときの記録ですか
 音楽的活動 視覚的活動 体性感覚的活動 人との関わり遊び その他

この活動が好きだと思いましたか（主観）
 わからない ややそうおもう そうおもう

どれくらい自信がありますか（度合い）
 まったくない やや自信がない わからない 少し自信がある 自信がある

どのように感じていると思いますか（想像）
 好き 楽しい 興味深い 思案中 どっちでもいい その他

この活動をしているときの反応の変化がわかりますか（見たもの）
 全くわからない わからない どちらとも言えない 少し分かる よく分かる

※どこをみてそう思いましたか

- 全身の動きが少なくなった 全身の動きが大きくなった
- 目の動きが変化した 瞬きの様子が変わった 呼吸の様子が変わった
- 唾液を飲み込む様子が変わった 発声の様子が変化した
- 表情が変わった 顔色が変わった
- 手の動きが変わった 足の動きが変わった その他

このようなことをしてみましたか（確かめたもの）
 やっていることを中断してみた この活動前と比較してみた
 刺激別に分けてみた 他の刺激と比べてみた 他の活動と比べてみた
 やっていない

以上のような判断をした理由を教えてください

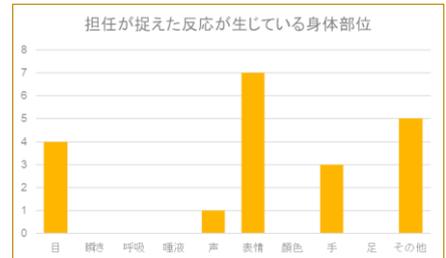
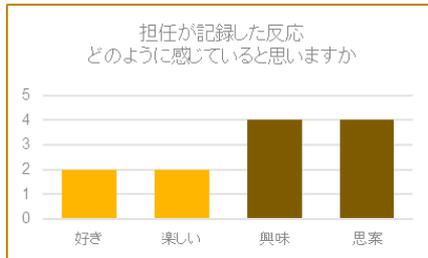
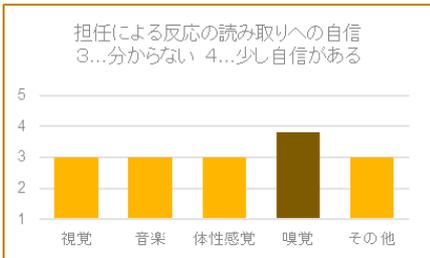
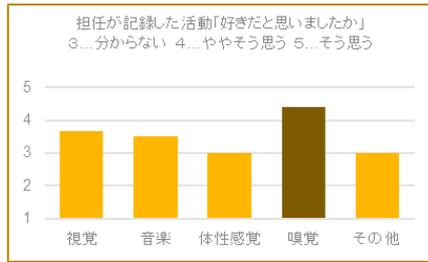
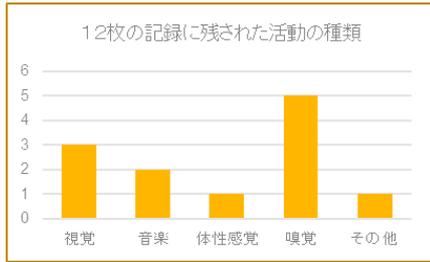
記録を取りたいと思った活動があったとき、「主な刺激は何か」を意識してもらうための項目を作成。途中で「嗅覚」を加えた。

「好きなのだろうな」と記録者が感じた、度合いや自信、種類について、記録者の感覚を捉えるために準備。5件法にして「嫌い」があっても良かったのかもしれない。

「どこを見て判断しましたか」身体の反応を見ること、事実をおさえることが重要であるということを共有するために準備。これまでの実践から得られた観点をチェックボックスで準備。

ベースラインと比較する、中断して比較する、など「比べる」の技法を、より現場で捉えやすくするためのチェックボックスを準備。事実が捉えられたら、比べてみていくということを共有することが目的。

(3) 記録表の整理結果(12枚)



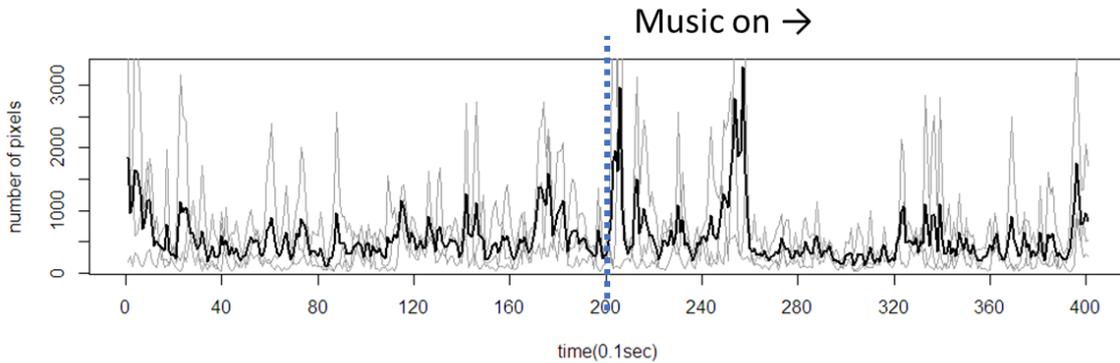
..【考察】.....

- ・この記録の結果は、担任の先生が「記録に残したいな」と思ったものが集まっているものである。
- ・刺激別に〇個ずつ観察した結果、や活動ごとに〇個ずつ観察した、という結果ではない。
- ・つまり、担任の先生が「どのような活動に手ごたえを得ており、どのような反応を捉えてやりとりをしているか」を可視化したものであると言えるのではないだろうか。そのように捉えてここでは考察を行う。
- ・担任の先生は、視覚、音楽、嗅覚に働きかける活動で手ごたえを感じている（記録を残しているということから）。
- ・よりはっきりと分かりやすい反応が「嗅覚」を提示したときのものであるようである（自信を問う結果のグラフから）。
- ・そのときの表出は、目や表情に多く表れているようである（身体部位の結果のグラフから）。
- ・つまり、担任の先生は「嗅覚」を伴う活動時の対象児の表情変化の反応を受け取ることに最も自信があるとと言える。
- ・視覚への反応、音楽への反応、体性感覚への反応については、読み取りに自信が無いようであるが、全く捉えられていないわけではない。（ここにコミュニケーションをさらに豊かにするヒントがあるのではないだろうか。）
- ・視覚への反応、音楽への反応、体性感覚への反応について、ICT を用いて観察し、その結果を共有すれば、担任の先生の普段のやりとりに良い影響を与えられるかもしれない。
- ・それぞれについて、OAK による観察、研究仕様版による数値化、時系列分析を行った。

.....

(4) OAK 分析(※研究仕様版)の結果のうち、最も特徴的だった結果

ベースライン20秒、音楽20秒の観察結果を3回分重ねた
A 児の音楽刺激に対する身体運動(頭部)の変容過程(太線…平均)



..【考察】.....

・「振動刺激を体験しているとき」「音楽を聞いているとき」「玩具を視覚的に提示されているとき」のそれぞれについて OAK 分析、数値化、時系列分析を行ったが、そのなかで最も特徴が現れたのが「音楽を聞いているとき」であった。

・記録ビデオのなかから、「音楽が再生される前の20秒」「音楽が再生されてからの20秒」があるものを抽出した。

・その結果、3つの活動シーンが抽出された。

・それぞれについて、数値化を行い、グラフにした。上記グラフの、灰色細線で示した線が、それぞれの結果である。

・3回分の身体の動きの波形について、平均処理を行い、黒色太線でグラフ上に示した。

・“3回分”では少ないのかもしれないが、現段階での考察を行う。

・3つの身体の動きの波形を別々に見ていた時には

「似ている部分」もあるが、「異なる部分」もありどう解釈すればよいのか分からずにいた。

・3回分を重ねてみることで、「音楽が再生される前の20秒」に起きていた身体の動きはムラが大きいと感じられた。平均をとると動きが少なくなっていく傾向があるように感じられた。

・また、3回ともに見られた音楽が再生された直後の動きは、聴覚性の反射の可能性が高いと考えられる。

・その後5~6秒後ぐらいにもう一度動きが見られているが、これは新たな発見の可能性もある。

反射の影響による動き、動いた後基に戻るための動き、他の解釈があるか、今後の検討が必要である。

回数がさらに増えていくと、消えていく動きなのかもしれない。

・26秒~32秒の間の動きの減少は、音楽への定位反応の表れの可能性が高いと考える。

・32秒~40秒の間の動きと、音楽提示前(0秒~20秒)の動きの波は、よく似ているように感じられる。

(5) 協議の結果

協議は計3回行った。

第1回(9月1日)

○(試されようとしていた、押した感覚がほぼ得られない)ピエゾセンサースイッチよりは、(押した感触がフィードバックされる)プッシュ型スイッチが良いのではないだろうか。

第2回(10月22日)

○スイッチよりも、反応を大切にされた方が良いのではないか。
○先生の場所、方向、活動の順序、大切にすれば反応が分かりやすくなるのでは。

第3回(2月9日)

○実践の新しい目標としてこんなことが考えられるかもしれない。
・音楽が再生される前から期待して動きが少なくなるような反応が出るように育てる。
・びっくり反射のような波があるが、これが少なくなる関わりの工夫を考えてみる。
・動きが少なくなっているエリアがあるが、この時間が伸びていくにはどうしたらよいかを考える。

..【考察】.....

- ・動きを引き出す、環境への理解を高める、ICTを用いた教育をする、たとえば「スイッチを使う」というイメージが我々教員のなかにはある。
- ・しかし、この対象児においては、因果関係理解、スイッチのフィッティング、という考え方のみで、実践を進めていくのは難しいと感じた。
- ・初めの議題はスイッチをどうつかうか、というところからであったが、より対象児の反応を重視するやりとりへ変わってきているのが特徴である。
- ・対象児の動きをスイッチでくみ取るのは難しいからである。
対象児の動きは「増加や減少」のように生じているものであり、明らかな方向性をもつ動きは観察されていない。現段階では、この増加や減少のように生じている反応の意味を深く知ることが重要ではないか。対象児ができていることを重視した、現段階で成立する学びがいのある環境を提案する必要がある。
- ・対象児にとってつかみやすい、環境のなかに含まれている要素(音楽やにおい)を用いて対象児の興味関心を育て、表出する力をつけていくには、どのような考え方を共有するのが重要なのだろうか。
- ・「人が移動するときの足音」という刺激に対する対象児の反応が簡易観察により観察されているが、そのような対象児にとって、外界の変化を感じることができ「チャンネル」を用いて、一つ一つの活動や、物に対する理解ができるように活動を組むことならできるとも思えない。
- ・「音楽」「声」「音」「匂い」「足音」については、対象児にとって理解のためのヒントとできるものである。
- ・例えば「CD ラックからガチャガチャと選ぶ音が聞こえる」足音「CD ラジカセの蓋が開く音」音楽が流れるこれだけのことであるが、繰り返ししっかり感じてもらえれば、対象児の反応が変わってくるかもしれない。

・対象群(私たち教師を含む)の事後の変化

実践者の考えの変化

意識を向けられていない玩具や、スイッチに気が付いていない状況では、因果関係理解の学習は成立しないが、いずれにも注意を向けられていたら、学習として成立するかもしれないと**実践前**は考えていた。

協議のなかで、“行動分析の考え方”と比較して考えたことがあった。

- 子どもの行動が変わるきっかけとなるものを「強化子」と決定する —
- その教化子を計画的に用いて、子どもにメリットのあることを教える —

これを応用するなら、「子どもの反応が変わるきっかけとなるものを探す」のが現段階で重要な目標であり、スイッチ等を用いた行動形成の指導はその後に取り組みられるのが良いのではないだろうかという**考えに変わった**。

共同実践者の考えの変化

この実践前は、主体的な動きを引き出す教育をするなら
スイッチを用いた学習だというイメージがありました。

でも、本当に知りたかったのは「反応をどう捉えたらよいのか」
ということだったと思います。

今は、
スイッチよりも、環境の変化をどう伝えるかということが大事と思いました。

反応が変わっていくように、ということであれば、
同じことを繰り返したっらいかんということやね

『ある曲をかける』ことの予測が立つようにするには
ラジカセの場所に移動する先生の足音と、
CDの蓋を開く音と、
CDをセットする音をしっかり聞かせて…
曲の違いはどう伝えたらいいのかな…



対象児の変化

対象児の変化については、主観的であるが、担任教師の感想を引用する形で記載する。

.....
反応を引き出すために、「聞いているなー」と思ったときにピアノの演奏を中断してみよう様子を見てみたり
正面で声かけをしてからピアノまで移動してみたりすることを試してみるうちに、

対象児から「あれ？」っていう表情になっているような反応が出ているように感じるようになりました。

外界への興味が高まっているのではないかと感じられて、嬉しいです。

.....

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づきと【それに対応するエビデンス】

(○…良かったこと ●…改善点)

○記録表で「記録者」の主観を捉えることは、介入のヒントとなるかもしれない【結果(3)】。

●刺激ごと、活動ごとに計画した記録があっても良いかもしれない。

●好きにとらわれない、フラットな記録でも良いかもしれない。

●主観でしかとらえられないヒントを得られながらも、データを取得する際には客観的に広くとってみる試しをしてみたい。

○時系列上に動きの変化を記録できるのは、子どもの反応を理解するのに今後も可能性がある【結果(4)】。

●3回分を重ねる、としたが、実際に計測できる時間、その質、を考えて何回分重ねるのが良いか検討したい。

○協議をしていくのはとても重要であり、実践者と共同実践者の考えに良い影響を与えられた【結果(5)】。

○記録表は、担任の先生の客観的にみる目を促進する効果があったかもしれない。

記録表の、「確かめたもの」の記載結果

日付	活動	確かめたもの
7/6	音楽を聞く	やっていない
7/8	手作り楽器の色選び	やっていない
7/13	手作り楽器のデザイン選び	やっていない
7/15	玩具体験	やっていない
7/16	栽培活動(レモンバーム・オレンジバーム)	やっていない
7/17	栽培活動(レモンバーム・オレンジバーム)	他の活動と比べてみた
7/20	栽培活動(レモンバーム・オレンジバーム)	他の刺激と比べてみた
7/22	朝の会の歌	この活動前と比較してみた
7/29	栽培活動(ゴーヤ)	やっていない
8/20	夏休み中の面会	この活動前と比較してみた
8/27	栽培活動(ゴーヤ)	他の活動と比べてみた
8/31	絵本の読み聞かせ	やっていない

記録表に記載された内容を見てみると、
活動の後半には「確かめてみる」を実施してくれている
ことが分かる。このような記録表は、教師の視点を共有する
効果があるのかもしれない。今後も記載内容に細心の注意
を払いつつ実践で活用することができれば、子どもを見る目
を共有し客観的に捉え実践に結び付けられるチームを作って
いくことにつながるのではないだろうか。